流れが変るなかで

駛馬北　後藤島子

思えば昭和三十五年の三池闘争を境に世の中は大きく変ってきました。三池闘争は、天下分け目の闘いだったのです。

池田、佐藤両内閣の高度経済成長政策によって、国土の破壊と汚染が急激に進みました。"新産都市法"は"公害ばらまき法"でした。その半面、企業が得たばく大な利潤は、果て知らぬ設備投資とドルの蓄積にまわされ、その結果、円が切り上げられたにもかかわらず、国内には金がダブつき（もちろん片寄って）、庶民のささやかな貯金の利子は切り下げられ、ダブついた金を持っている銀行・土地成金・大企業などは、土地や証券、あるいは絵や刀にコイン、木材などを買い占めて値をつり上げ、インフレを促進しつつあります。

ところで、分裂した組合は弱いといわれています。私たちの組織が分裂した当時、ある三池労組の幹部の人は、分裂した組合が一緒になるのはなかなかむずかしく、だいたい八年くらいはかかるといわれました。八年どころか、もう十三年もたちましたが、まだ見通しは暗いようです。でも、世の中の大きな流れは変ってゆくように見えます。

今度の選挙で民社、公明の中間政党は没落し、民社の地盤である同盟の中のかなりの組合員が、民社を支持しませんでした。そして同盟も「生産に見合った賃上げを」と、今までの方針を変え、総評と同じような賃上げ方針を打ち出しました。

とにかく今最も恐しいのは戦争と、公害と、物価であります。守らなければならないのは平和であり、美しくて住みよい日本であり、安定した生活であります。

そのためには、統一が必要であります。マイホームの気持を克服して外に出て、地域住民の連帯を掘り起こす事が必要です。その為に努力せねばならぬ、と思っています。

自分達の為に。子供達の為に。そして人類が滅亡しない為に。

後藤さん

詩

長い便りをくれ
Mというあいつに

三川　すぎもとかずお

どうしている　あいつ
あいつとおれとは中学からの同級生
おなじ炭鉱で働いた　なかま
がらにもなく恋の便りを運んでやった
そんな　深いつきあいだった
あいつが　鉄柱を打ちこむボンコシで
あやまって顔面をしたたか打たれたとき
ごっつい顔をどんなに歪めたことか
その痛みがこたえて
炭鉱をやめる決心をしたのか
そがんこつあるもんかとあいつはいう
なんべん聞いても
おれはそこのところを忘れてしまう
秀才といわれたあいつ
炭鉱で働きながら
夜間高校を首席で卒業した　あいつ
中学の教師になるのが夢だった　あいつ
争議のときがんばった　あいつ
酒の好きな　あいつ
ショオケを沈めたカメからすくって
自家製のドブロクを飲ませた　あいつ
ずっと以前の便りで
トラックの運転をしているとあったが
よくまあー課長にまでなったものだ
課長にもピンからキリまであるとは思うが
あいつは　この土地よりも
もっと喧そうで鋭い都会で
がむしゃらな性格そのまま
生活にむしゃぶりついていったことだろう
職制でいながら
――集会に行ったなどという便りを見ると
やっとるわいと
思わずおれも背すじをのばすのだ
いちじは俺のところに来いと
誘ってくれた　あいつ
でもおれは断った
そして相変らず息を切らせながら
ギイコギイコと自転車をこいで
あなぐらにもぐっている
だがなあ
おれがここにいるから
あいつも心が安まるだろう
なあ　そうだろう
時としてあいつを襲う痛みのなかに
おれの影がよぎることもあろう
また　長い時間を経て
おれの苦しみのなかに
あいつの鼓動が伝ってくるとき
あいつが生きた
確かな痕跡をたどることができるのだ
あいつが去ったあと
炭鉱も変った
驚くほど人が減って能率があがった
まちも変った
おれの住んでいる社宅のすぐそばに
でっかい遊園地ができた
ゴルフ場も　ボーリング場も
しかしおれの家は草のなかだ
あいつの住んでいた社宅のすぐそばには
アルミ工場ができて
木が枯れた
そんなことがいっぱいあるんだ
ある年の年賀状で
会って一杯飲もうと書いてよこしたが
気持だけでもうれしいな
焼酎でいい
腹わたにしみる酒を
あいつと　飲みたい
そしてあいつの話を聞いてやろう
おれにも言いたいことが山ほどあるんだ
どうしているか　あいつ
それほど遠い記憶をまさぐることもない
新しい衣裳もいらない
せめて　あいつが
長い便りをくれるのを
待っている

昇坑

三川　月野貞信

ツルを洗い
スコをおさめて
仕事やめ
いただき
ここまでときがくりゃ
いただきってものさ
つめてえ
あせのかれた体
喉をつき抜け
胃袋に拡がった
みず
ビールよりうめえや
ポコン
耳なり
地底にさがるときにうけた
地圧のたしかさ
ポコン
生きてあがれたぞ
斜坑人車に流しこむ
レコードは
ブルース
くそくらえ
禁じられた口笛は
行進曲
痛い
太陽の光が
こんなに鋭いものか
汚れ手にいっぷく
にがい
頭とられて
ロッカーにへばりつく
ゆげのむこうの
黒い顔にむかって
よごれたのが
がま出しもんなら
おいらも
シュートに
つらさし出すべえか
なにお
くやしかったら
てんだ
アハハハ……
つめたい空気とみどり
こいしくなったな
みえぬ友と
久しぶりに
いくか！

犬と散歩

宮浦　平田光男

或る日
犬を散歩につれてあるく
犬を飼う事にしたのは妻だ
隣り近所空屋だらけ
昼も恐いという
俺よりも犬が頼りになるのだろう
或る日犬を散歩につれてあるく
しばらくして突然たべた物を吐き出す
そうだった
食事を与えてすぐに
歩るかせたからだ
悪るい事をした
でも
俺達人間は
その点便利に出来ている
中食して
すぐに作業始めて
汗だしても
たべた物は吐き出さぬ
資本家にそこまで見ぬかれている
腹が立つ

短歌

三川　木村守

寝て見ればもの多くそれ詩（うた）になる肉体労働者われ坐るは苦手
言葉湧きいでて歌成る今日の幸快便ありし後の如くに
働らける者の感情剝き出しに作業密度のまた濃ゆくなる。
限度超うる運搬作業われ言へばあちらで手順を奪い合いいる
つかみ合わんばかりに声を荒らげて職制手順を奪い合いいき

宮浦　平田光男

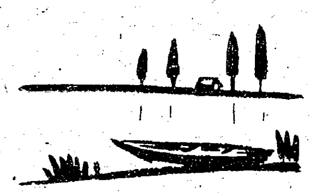
親子して手に汗にぎりふり仰ぐテレビより技せまりくるを見
チンパンジー仕込まれた芸さりげなくムチ持てる人ひたいに汗する

俳句

高椋竜生

朝寒くなりぬひとりの飯を炊く
老妻とふたりとなりし焚火かな
つとめよりかえるカバンの露けしや
心いま地獄に仏笹子鳴く
うら枯るる必死の力ひきしぼり

新年文芸



ご投稿くださつた皆さん、ありがとうございました。これからもご投稿を！

守る会加盟者紹介

ここに紹介する人々は、去る十月じゅうに"CO患者守る会"にご加盟下さった方々です。ともに手をとって、闘っていきましょう。

末永　節子	福岡市西区堤田地
北本　冬吾	北九州市八幡区折尾
吉成　一彦	〃　〃　平野
古賀　和力	〃　〃　折尾
大久保　章	〃　〃　茶売
山内　賢二	〃　小倉区春丘
東大野　重雄	青森市沖館字小浜一
小野寺　文郎	〃　〃
高畑　正雄	〃　〃
中田　泰寿	福岡市西区荒江団地
松尾　洋	鳥栖市今泉町鉄道寮
清水　伸吉	東京都北区神谷二
池田　信夫	〃　〃　中里町
土屋　伸之	〃　太田区蒲田
橋本　恵子	〃　東村山市本町
中田　喜久夫	埼玉県川越市古市場
島崎　竜也	千葉県市川市東大和
杉山　健	東京都品川区西五反
竹内　信也	〃　〃
徳田　毅彦	〃　〃
堀野　国雄	〃　〃　旗一台
園田　守雄	〃　北区田端新町
大久保　武	〃　世田谷区成城
島村　征弘	〃　練馬区上石神
服部　光作	〃　足立区花畑町
中村　信男	〃　町田市金井町
及川　清治	千葉県松戸市南花島
森岡　均	京都市北区紫野上野
	（京都工場活動者会議代表）
永田　謙治	神奈川県
益子　岩夫	栃木県那須郡黒羽町